

●特集 2022年1月15日 フンガ・トンガ-フンガ・ハアパイ火山の噴火と日本国内における潮位変化

（1）概要

2022年1月15日13時頃（日本時間）にトンガ諸島付近のフンガ・トンガ-フンガ・ハアパイ火山で大規模噴火が発生した。この大規模噴火による噴煙高度は約52,000フィート（約16,000m）に達した（ウェリントン航空路火山灰情報センターによる）。

日本国内において、この大規模噴火によるものとみられる潮位変化が観測された。この潮位変化は地震に伴う通常の津波とは異なるものであったが、気象庁は津波警報等の仕組みを用いて、防災対応を呼びかけた（気象庁の情報発表の詳細は、後述の「（2）気象庁の情報発表対応」を参照）。この潮位変化は、津波の高さの測定方法で測ると鹿児島県の奄美市小湊で134cm、岩手県の久慈港で107cmを観測したほか、太平洋側を中心に日本国内の多数の潮位観測点で観測された。

この潮位変化により、日本国内では、避難中の転倒により軽傷2人（総務省消防庁による、1月24日17時現在）、また、高知県、徳島県、三重県、宮城県で転覆船・沈没船等30隻など（国土交通省による、1月17日04時30分現在）の被害が生じた。また、日本国外では、今回の噴火により、火山周辺の島々では降灰や潮位変化が観測され、また、太平洋の島々や各国の太平洋沿岸部でも潮位変化が観測された。トンガでは死者3人及び約290戸の家屋被害が、また、ペルーでは死者2人の被害があった^{（注1）}。

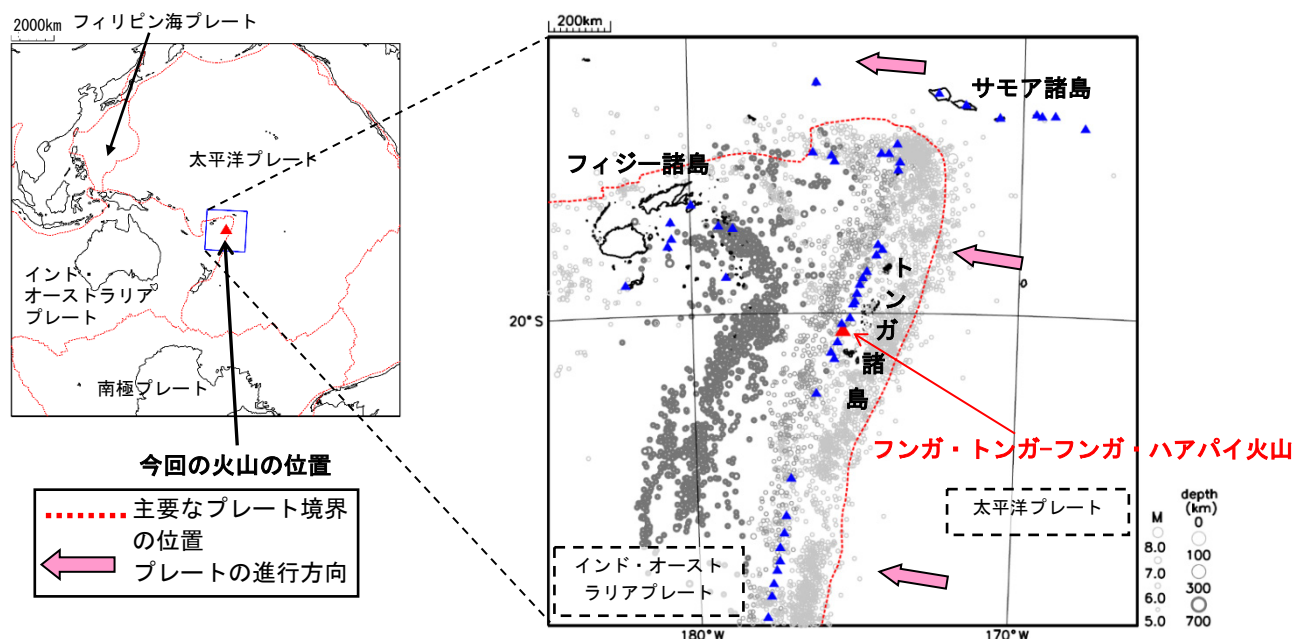


図1-1 フンガ・トンガ-フンガ・ハアパイ火山の位置と周辺地震活動の震央分布図
（震央分布図：1980年1月1日～2022年1月23日、深さ0～700km、 $M \geq 5.0$ ）

深さ100km以深、300km以深の地震を段階的に濃く表示

▲印は火山を示す。（赤：今回の火山、青：その他の火山）

火山の位置は、スミソニアン自然史博物館による第四紀火山の位置データ（Holocene及びPleistocene）を使用。

※プレート境界の位置と進行方向はBird (2003) *より引用。

Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

（注1） 海外の被害状況は、出典のないものはOCHA（UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs：国連人道問題調整事務所）による。

表1-1 2022年1月15日のフンガ・トンガ-フンガ・ハアパイ火山の大規模噴火による潮位変化に関する日本国内の人的被害及び船舶被害の状況

●人的被害の状況（2022年1月24日17時00分現在、総務省消防庁による）

都道府県名	人的被害				合計
	死者	行方不明	負傷者		
			重傷	軽傷	
人	人	人	人	人	
鹿児島県				1	1
沖縄県				1	1
合計				2	2

※軽傷の被害は、いずれも避難中に転倒したもの

● 上記の表以外の被害

（2022年1月17日07時30分現在、国土交通省 災害情報「令和4年1月15日13時頃のトンガ諸島付近のフンガ・トンガ-フンガ・ハアパイ火山の大規模噴火に伴う潮位変化について（第6報）」による）

- 高知県 転覆船・沈没船等22隻
- 徳島県 転覆船・沈没船等5隻
- 三重県 転覆船・沈没船等1隻
- 宮城県 転覆船・沈没船等2隻